

稲WCSを利用した冬季放牧と 繁殖和牛経営入門講座

飼料の少ない冬季に、稲WCS（ホールクロップサイレージ）を利用した繁殖和牛放牧を行った結果、母牛の健康状態に問題はなく、仔牛も順調に出産できました。また、稲WCSの省力運搬、給与機具の実証を行いました。

繁殖和牛経営を始めたい人を対象にした入門講座を県内で初めて開講し、老若男女6名の応募があり、5名に修了証を交付しました。

❑ 冬期放牧の実証 ❑

平成21年度から、大子町の繁殖和牛を2年間結城市へ移動し、冬季放牧の実証を行ってきましたが、平成23年度に初めて、大子町で稲WCSを利用した冬季放牧（11月～4月）を4カ所（3.4ha、15頭）で実施しました。

冬季放牧には、飼料として重さが約300kgある稲WCSロールバールを移動する必要がありますが、三脚と軽トラックを利用することで、高齢者1人でも移動することが可能になりました。



稲WCSロールバールの移動方法の実演



可搬給飼柵「らくらくきゅうじくん」

（独）農研機構中央農研総合研究センターで開発した可動給飼柵「らくらくきゅうじくん」を使用すれば、給飼柵をロールバールのところまで移動させて使用できるため、排せつ物が1カ所に溜まることもなく、環境に配慮した放牧ができます。

放牧は、日々の飼料給与や除糞作業が省力化できます。今後、周年放牧の技術を普及していくことで牛舎の有効的な活用が可能となることから繁殖牛の増頭が期待されます。

❑ 繁殖和牛経営入門講座 ❑

今年度の受講生の内訳は男性が4名、女性が2名で、20代は4名、40代と60代が各1名でした。講座は4回で、座学を2回と、大子町の実習受入農家での現地実習を2回行いました。

修了者のうち、2人は県内で繁殖和牛に取り組んでいます。また、1人は県北地域で繁殖和牛経営を始めようとしています。残る2人は学生で、今後繁殖和牛経営に取り組むことが期待されています。

平成24年度も、繁殖和牛経営入門講座の開催を計画しています。



受講生の農家実習風景